

第1回図書館アドバイザー・レクチャー

電子図書館の現状と
読書環境の変化

2018年1月26日 14:00~16:00

植村八潮

専修大学 文学部 人文・ジャーナリズム学科

yashio@amber.plala.or.jp

【アジェンダ】

1. 出版環境の変化
 1. 印刷出版物市場の推移
 2. 電子出版市場の推移
 3. 出版と図書館の関係
2. 電子書籍と電子図書館
3. 学校図書館における電子書籍利用調査
4. 電子書籍のアーカイブを誰が担うのか

2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

2

出版業界紙『新文化』2017年出版界10大ニュース

- ①コミックス売上げ急落
紙版と電子版の売上げ同額に？
- ②深刻さ増す輸送問題
配送会社、出版輸送から撤退相次ぐ
- ③アマゾン、日販へのバックオーダー停止(6月末)
日販、「遺憾」表明し在庫見える化促進
- ④今年もM&A、倒産の動き
CCC子会社が主婦の友社の株式99%取得
- ⑤図書館に文庫貸出中止を提言
文藝春秋・松井社長の発言が波紋

出版取り次ぎ「もう限界」一晩で配達55店、積み荷は激減。朝日新聞(2018年1月12日)

3月徳間書店に続き、12月15日日本BS放送が理論社に続き、国土社も子会社に(2018年1月11日)

10月12日朝日新聞報道
10月13日全国図書館大会

2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

3

出版業界紙『新文化』2017年出版界10大ニュース

- ⑥異色のベストセラーが目立つ
80年前の書籍が新装版と漫画版で大ヒット
- ⑦万引き犯情報を書店と共有
万防機構がDB構築で本腰
- ⑧“中吊り広告入手”問題で謝罪(5月に発覚、9月謝罪)
文藝春秋社長が新潮社社長に
- ⑨工藤社長、岡副社長が辞任(11月1日発表)
丸善ジュンク堂書店3年連続赤字で
- ⑩イングロ氏がノーベル文学賞(10月発表)
注文殺到！8作品計117万部重版

『うんに漢字ドリル』
『君たちはどう生きるか』(100万部超)

2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

4

書店ゼロの自治体、2割強に 人口減・ネット書店成長
朝日新聞2017年8月24日

- ・香川を除く全国46都道府県で420の自治体・行政区にのぼり、全国の自治体・行政区(1896)の2割強
- ・全国の書店数は1万2526店で、2000年の2万1654店から4割強も減った。
- ・人口減、活字離れ、雑誌の市場規模は10年前の6割に縮小、ネット書店、経営者の高齢化、コンビニの雑誌販売などの影響、書店の大型化

2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

5

第63回学校読書調査

学校図書館利用が減少

調べものは、まずインターネットという考え方が広く浸透

1カ月間に一冊も読まなかった割合(不読率)

本:小学生6%(4%)、中学生15%(15%)、高校生50%(57%)

雑誌:小学生48%(43%)、中学生60%(55%)、高校生67%(59%)

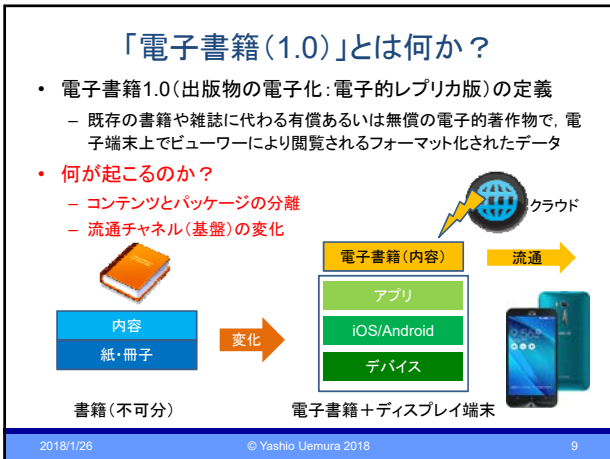
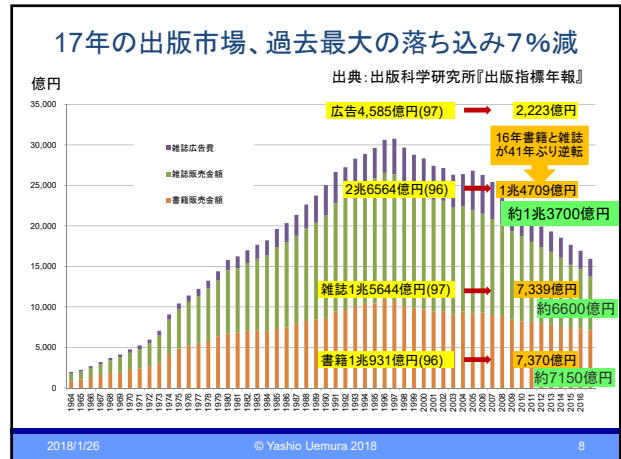
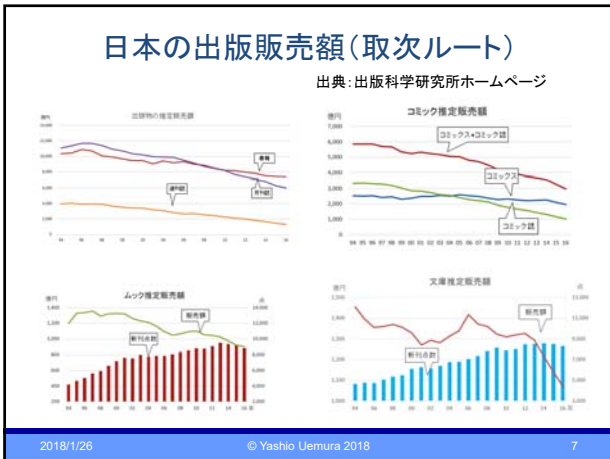
雑誌の不読率は1990年代後半から上昇、中高生で初めて60%台

毎日新聞2017年10月27日 東京朝刊

2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

6



2016年度電子書籍市場規模は1,976億円 24.7%増 2021年度は3,500億円規模へと成長

<https://www.impress.co.jp/newsrelease/2017/07/20170727-01.html>

出典: インプレス総合研究所『電子書籍ビジネス調査報告書2017』
【図表1. 電子書籍・電子雑誌の市場規模予測】

2018/1/26 © Yashio Uemura 2018 10

2015年度電子コミック市場1,677億円、コミックが市場の8割

<https://www.impress.co.jp/newsrelease/2017/07/20170727-01.html>

出典: インプレス総合研究所『電子書籍ビジネス調査報告書2017』
【図表2. 電子書籍市場規模のジャンル別内訳】

2018/1/26 © Yashio Uemura 2018 11

紙と電子の出版物販売金額(2016年)

- 電子出版市場1,909億円(27.1%増)
 - 電子コミック27%、書籍13%、雑誌53%
- 2017年上半年1,029億円(21.5%増)
 - 電子コミック777億円(前年比22.7%増)、電子書籍140億円(14.8%増)、電子雑誌112億円(21.7%増)

年	2014	2015	2016	占有率%	
紙	書籍	7,544	7,419	7,370	44.4
	雑誌	8,520	7,801	7,339	44.2
	紙合計	16,064	15,220	14,709	88.5
電子	電子コミック	882	1,149	1,460	76.5
	電子書籍	192	228	258	15.2
	電子雑誌	70	125	191	8.3
電子合計	1,144	1,502	1,909	11.5	
紙+電子	合計	17,208	16,722	16,618	100

出典: 出版科学研究所『出版月報』2017.2 単位: 億円

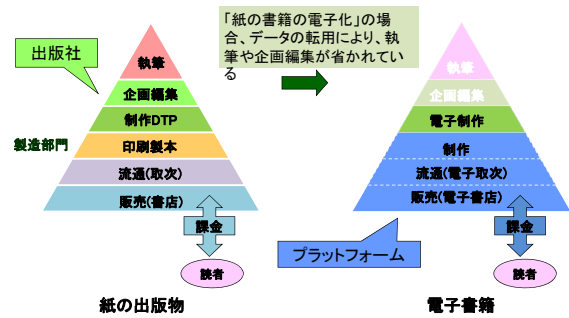
2018/1/26 © Yashio Uemura 2018 12

各国の電子／印刷書籍市場(参考値)

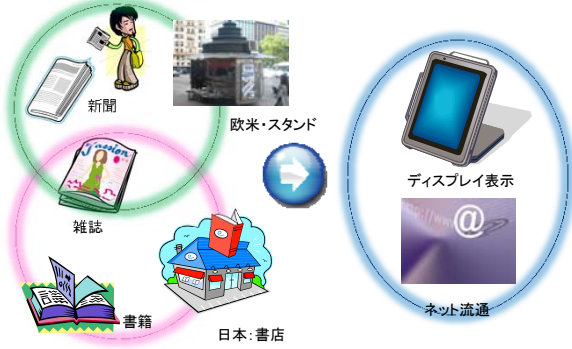
	電子書籍	印刷書籍	電子／印刷
アメリカ(\$)	28億4000万\$	277億8000万\$	23.8%
AAP2016			
アメリカ(冊)	204万冊	653万冊	31.2%
BookScan2015			
ドイツ(€)	4億3000万€	88億5000万€	4.6%
フランス(€)	1億6380万€	26億5700万€	5.8%
イギリス(£)	5億5.4千万£	27億6千万£	14%
日本(円)	1909億円	1兆4700億円	9.9%

各国の調査方法、市場のとらえ方が異なり、単純比較はできない。
 出典：出版科学研究所『出版月報』2017年11月号、全国出版協会

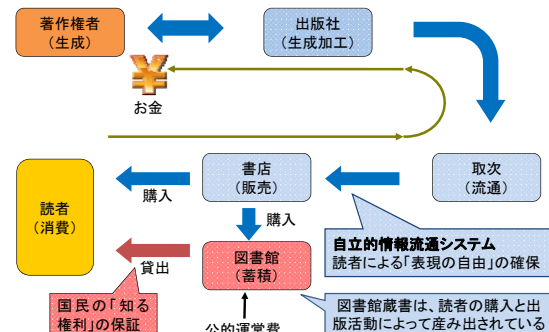
出版コンテンツ流通基盤の変化



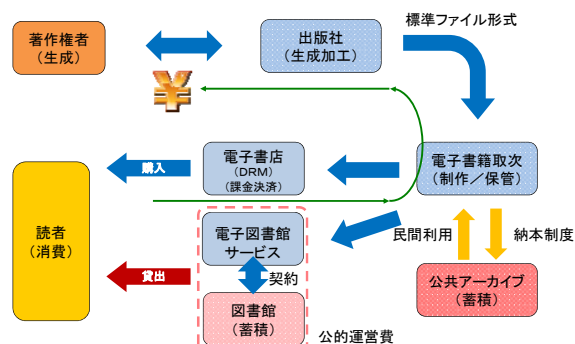
流通チャンネルとパッケージの変化



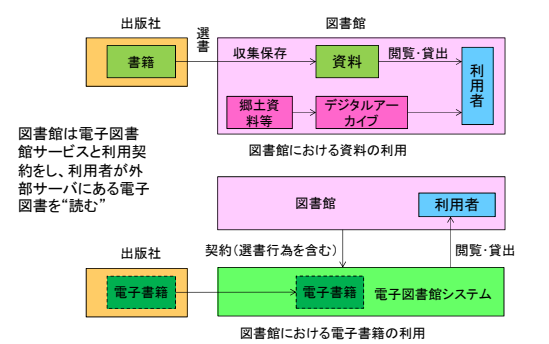
出版流通と図書館



電子書籍と電子図書館



図書館と電子図書館



電子図書館・電子書籍貸出サービス調査

電子出版制作・流通協議会 アンケート結果

実施:2017年

対象:公共図書館(中央館)1,352館中1,030館

回答:451館

2013年以来、5回目の実施

電子書籍サービス実施館(65館)に対しては、より具体的内容を盛り込んだ

関東地方の国公立大学(163校)の大学図書館に依頼を行い80校からの回答



2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

19

図書館法にみる“図書資料”

図書館法 平成20(2008)年改正

第三条(図書館奉仕)「図書館資料」を“電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。)を含む”と拡張

改正当時の見解「図書館においてインターネットや商用オンラインデータベースといった外部の情報源へアクセスしてその情報を利用することは、図書館法第17条にいう「図書館資料の利用」には当たらないと考えるのが妥当である」

生涯学習審議会社会教育分科審議会計画部会図書館専門委員会『図書館の情報化の必要性とその推進方策について—地域の情報化推進拠点として—(報告)』p.10 1998年.

2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

20

電子書籍貸出サービスの法的根拠とは

- データに所有権はない
 - データ(情報)そのものは所有権の客体にはならないといわれる。所有権は物に発生し、物とは動産または不動産に限られている。したがって、形がないデータ(情報)は所有権の対象とはならない。
- 物(モノ)でなければ貸与はできない
- 電子書籍の提供
 - 図書館利用者に提供する場合は、著作権法23条で規定される「公衆送信権」に該当する。
 - 複製物の貸与(38条4)のような権利制限規定は、「公衆送信権」に存在しない
 - 電子書籍の提供は、「非営利・無料」であっても、著作権者の許諾が必要となり、契約で具体的に定める必要がある。

2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

21

無料貸出の根拠(著作権法)

著作権法26条の3(貸与権)

著作者は、その著作物(映画の著作物を除く。)をその複製物(映画の著作物において複製されている著作物にあっては、当該映画の著作物の複製物を除く。)の貸与により公衆に提供する権利を専有する。

著作権法38条(営利を目的としない上演等)

4 公表された著作物(映画の著作物を除く。)は、**営利を目的とせずかつ、その複製物の貸与を受ける者から料金を受けない場合には、その複製物**(映画の著作物において複製されている著作物にあっては、当該映画の著作物の複製物を除く。)の貸与により公衆に提供することができる。

【無料貸出の根拠法は「著作権法38条」である】

図書館法 第17条(入館料等)

公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない。

2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

22

「電子書籍」は“図書”なのか？

- 『月報私学』2010年12月号(No.156)日本私立学校振興・共済事業団
- 電子ジャーナルは、雑誌が電子化されたもので、オンライン・ジャーナルとも呼ばれています。雑誌のコンテンツが電子化されたものと考えられますので、利用の態様に従い、当該の雑誌を冊子形態で購入した場合に準じた会計処理を行うこととなります。したがって、長期間にわたっての保存や使用が予定されない雑誌に相当する電子ジャーナルである場合、消費支出として取り扱うことができます。
- 電子ブックは、冊子形態の書籍が電子化されたもので、他に電子書籍、Eブック等の呼称があり、電子機器端末等を用いて読み取ります。電子ブックは書籍のコンテンツが電子化されたものと考えられますので、利用の態様に従い、図書に準じた会計処理を行うこととなります。

2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

23

電子書籍の会計処理

電子ジャーナルそのものに実体がないため、各大学により、予算費目が違うことがわかった。これまでと同様、雑誌費から支払っている大学もあれば、新たに電子資料費としての費目をたてたり、あるいは、図書費とは別枠で、通信運搬費、委託費等で処理をする大学もみられた。

- 私立大学図書館協会東地区研究部会逐次刊行物研究分科会「電子ジャーナルデータベース導入に関する調査報告2000」

- 固定資産(備品)
 - 図書(研究用、学習用)、逐次刊行物(保存雑誌)
- 消耗品費(簿外資産)
 - 長期保存を要しない資料(新聞、軽雑誌、など)
- 使用料等役務費(支払手数料)
 - データベース(商用)、電子ジャーナル等の契約料、使用料
- 使用料賃借料
 - オンラインシステム→ランニングコストの派生

2018/1/26

© Yashio Uemura 2018

24

米国図書館における電子書籍サービス

- 米国公共図書館(9082、分館を含むと16,000以上)のおよそ9割で電子書籍が貸出利用
 - 日本全国3000館以上の公共図書館のうち53館程度
- 貸出件数の多い大規模図書館の8割が、電子書籍予算は図書資料費の1割以下に抑えている。
- 電子書籍コレクションは大人の娯楽用フィクションに偏重
- 全体の貸出件数に対して、電子書籍は少数派に対するサービスにとどまる(ワシントン州キング郡図書館KCLS13%)。
- ベンダー(OverDrive, Baker&Taylor:Axis 360, Ingram:MyiLibrary, EBL,EBSCO, Proquest ebrary)ごとにアカウント/アプリが必要
- ニューヨーク公共図書館の開発アプリ「SimplyE」

電子書籍と図書館のコラボレーション

- 電子書籍と図書館のコラボレーションは、双方にとって極めて効果的
- Discoverability(発見可能性)
 - 電子書籍は、狭いディスプレイ上に展開されることから、認知度が極めて低い
- Serendipity(偶然に発見する力)
 - リアル店舗としての書店の役割
- Findability(発見)
 - 全文検索が電子書籍の利点
- accessibility(文字の拡大や読み上げ)

米国図書館の電子書籍利用モデル 2012年8月米国図書館協会(ALA) DCWG

- シングルユーザーモデル(One Copy/One User)
 - 印刷書籍と同様に1ライセンスで1度に1人の貸し出し
- 貸出回数の利用制限モデル
- 貸出制限モデル
 - 出版社からの要望がある館内でのみの貸出制限やコンソーシアムや図書館相互貸借(ILJ)の制限
- 利用回数に応じた課金(Pay-per-use)
 - 「利用者が図書館にリクエストした本を、司書が書店に行って、利用者に買い与えているようなもの」
- 利用者主導型購入方式(Patron-Driven Acquisitions, PDA)
 - 利用のあった電子書籍について料金を求める(閲覧履歴の扱いに懸念)
 - 米Total Box: (Pay-as-you-read)
 - 米OverDrive社: Cost-per-Circulation (CPC)
- 購入(Buy it)ボタン

米主要出版社の電子図書館サービス対応

出版社	貸出対象の書籍	貸出期限	貸出回数	価格	備考
ランダム・ハウス(独ベルテルスマン)	すべての電子書籍 オーディobook	無期限	無制限	電子書籍ごとに異なる。HCの3~4倍	2013.7 合併
ペンギン(独ベルテルスマン)	すべての電子書籍 オーディobook	1年→無期限 (2016.6より)	無制限	個人向け販売価格と同額→3~4倍	
ハーバーコリンズ(米ニュース・コーポレーション)	すべての電子書籍 オーディobook	1年	1ライセンス当たり26回貸出可	HCより低めが多い	
マクミラン(独ホルツブリンク出版グループ)	すべての電子書籍 オーディobook	2年	または52回貸出の早い方	刊行1年以内:60\$、1年以上:40\$	
サイモン&シュスター(米CBS)	すべての電子書籍 オーディobook	1年間		HCより安く個人向け販売価格より高く	
アシェット・ブック(仏アシェット)	すべての電子書籍 オーディobook	無期限	無制限	刊行1年以内:3倍、1年以上:1.5倍	

2013年頃よりすべての電子書籍提供に移行した
参考:『ポストデジタル時代の公共図書館』他
HC:ハードカバー

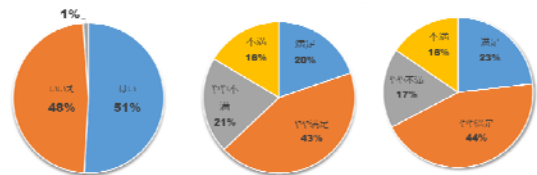
学校図書館における電子書籍の利用モデル調査

- 調査背景
 - 電子書籍の発行点数が増え、市場が活性化
 - 大学・公共図書館での電子書籍貸出サービスへの関心と要望
 - 学校および学校図書館においても電子書籍への関心が高まる
 - 学校図書館において電子書籍は、導入はすすんでいない
- 公共図書館で既に利用実績のある2つのシステムを流用し、電子書籍を実践的に利用できる環境を協力校の学校図書館に整えた
- https://aebs.or.jp/pdf/School_library_e-book_usage_model_report.pdf

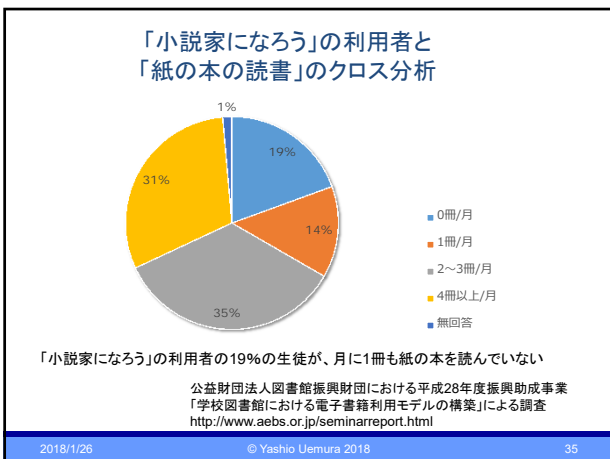
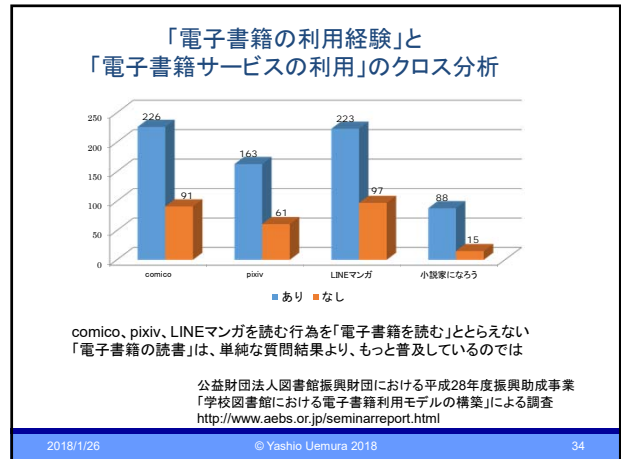
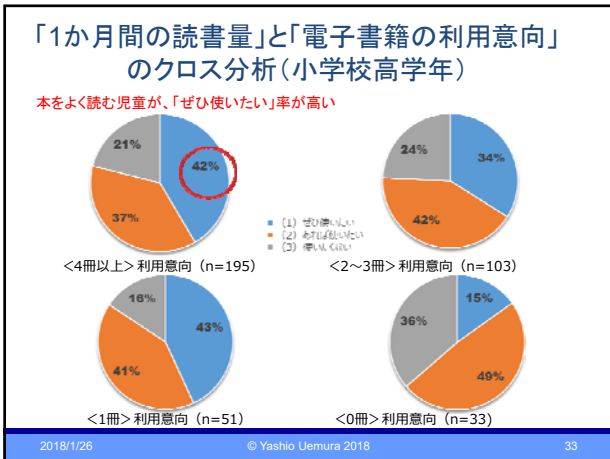
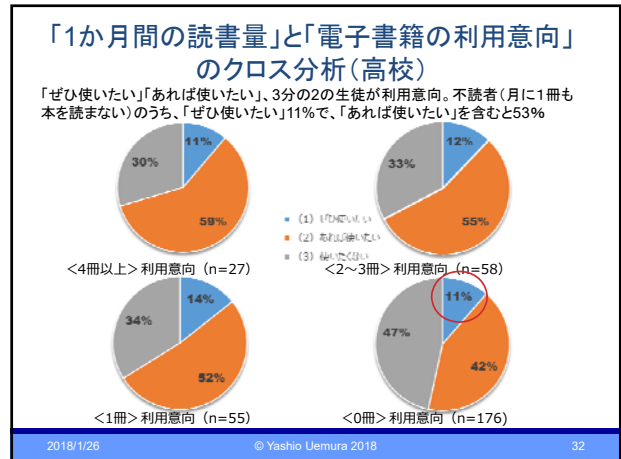
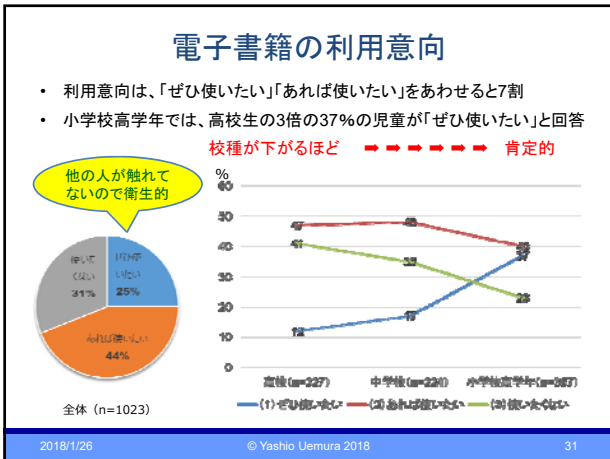


電子書籍の利用経験・評価

- 児童生徒の利用経験者は、全体を通じて約半数
- 児童生徒、教職員とも半数以上が好印象(読みやすい、使いやすい)
 - 児童生徒は教職員よりも高い傾向
- 小学校高学年生が中学生・高校生よりも高い評価



利用経験: 全体 (n=1868) 使いやすさ: 全体 (n=553) 読みやすさ: 全体 (n=639)



コンテンツはメディアから自由にはならない

- テキストを読ませる支持材料なしにはテキストは存在しない、したがって何であれ書かれたものの理解は、どんな場合でも、それが読者に達する際にまとう形態に部分的に依存する。
- ロジェ・シャルチエ、長谷川輝夫訳『読書の秩序』ちくま学芸文庫1996

2018/1/26 © Yashio Uemura 2018 36

新たなメディアとしての「電子書籍2.0」

若年層でスマートフォンからマンガを読む習慣が定着
 ~ニールセン マンガアプリの利用状況を発表~
 - マンガアプリTOP3の利用者数は200万人超で推移
 - TOP3アプリは月に20回利用され、1回につき6分以上読まれる
 - 20代以下の若年層がマンガアプリの利用をけん引。サービスにより男女構成比が異なる
http://www.netratings.co.jp/news_release/2017/03/Newsrelease20170328.html

- 住野よる『君の隣をたべたい』(双葉社)
 - 「小説家になろう」2015年
 - 本屋大賞2016年第2位、200万部、映画化
- 太田紫織『榎子さんの足元には死体が埋まっている』
 - 「E★エブリスタ(現エブリスタ)」2012年投稿
 - 角川文庫化、アニメ化、実写ドラマ化、100万部
- 金沢伸明『王様ゲーム』
 - モバゲータウン小説(現エブリスタ)
 - 2011年実写映画化、累計700万部
- 川村元気『世界から猫が消えたなら』(マガジンハウス)
 - LINE連載小説として発表後、単行本化

2018/1/26 © Yashio Uemura 2018 37

文字情報流通の主役交代

2018/1/26 © Yashio Uemura 2018 38

国会図書館「オンライン資料収集制度(eデポ)」

- 「平成25年7月1日から、納本制度に準じ、民間で出版された電子書籍、電子雑誌等を収集・保存します。当面、無料かつDRM(技術的制限手段)のないものに限って、収集します。なお、オンライン資料とは、インターネット等により出版(公開)される電子情報で、図書又は逐次刊行物に相当するものであり、電子書籍、電子雑誌等を指します」
- <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/online/index.html>

2018/1/26 © Yashio Uemura 2018 39

新たなメディアとしての「電子書籍2.0」

コンテンツ作り手	アナログ (印刷文字) 著者・出版社	デジタル (fix・reflow) 著者・出版社	デジタル (reflow) 著者・Publisher	デジタル (reflow) 著者・Publisher
コンテナ	本紙・印刷	本の電子化 paper first, digital later	digital first, paper later	born digital
コンペア	取次書店	プラットフォーム	プラットフォーム	プラットフォーム
例	書籍・雑誌	電子書籍、電子雑誌、dマガジン	小説投稿サイト 自己出版	comico, ウェブホン
表現	出版社によって信頼性を担保	出版社によって信頼性を担保	UGC / CGM	UGC / CGM

UGC(User Generated Content)ユーザー生成コンテンツ、CGM(Conspicuous Gallantry Media)消費者生成メディア

2018/1/26 © Yashio Uemura 2018 40

伊藤倫子『ポストデジタル時代の公共図書館』第1章

「もし何もかもがどこにでもあるのなら、図書館は他のどこにでもあるものじゃなく、他のどこにもないものを提供—あるいは創る—ことに集中しなくては」

“When everything is everywhere, libraries need to focus on providing---or producing---things that aren't available anywhere else, not thing that are available everywhere you look.”

--- Eli Neiburger, Deputy Director, Ann Arbor District Library (ミシガン州アナーバー地区図書館)

「図書館は『利用者』に何を提供するかよりも『利用者』のために何ができるのかを、考えることが重要ではないかと思ひます」

We like to say that libraries are less about what we have for people but more about what we do for people.

---Sari Feldman, ALA President

2018/1/26 © Yashio Uemura 2018 41

コンテンツと「信頼性」

2018/1/26 © Yashio Uemura 2018 42